京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

國体を傷く勿れ（中）

牧雲子投

昔宋の島龍長老或時給事郎濟川を訪ふて、說話する次でに、斯う云ふ問答がある。昔一官人ありて泗州の大聖に謁ふ（大聖は泗州の僧伽大師なり唐の高宗の時に安洛陽に至り行化して呉楚の間に歷て緇流に混同せり後に命じて薦福寺に住せしむ）師は何んの姓ぞ聖曰く姓は何官人曰く何れの國に住す聖曰く何國に住すと。此意は如何や、島龍云く聖本と何を姓とせず、亦是れ何國の人に非ず、乃ち緣に隨て化度するのみ、焉ぞ日本大聖の決定して姓は何何國に住すと以上の問答は、禪の宗旨から成つた者であるが、斯有る者の眼の着け處で文字の上だけでも味ふて餘りがある、元來西東の名も、權兵衛八兵衛の名も、何れも後から附した名稱に過ぎぬのである、大凡そ神は心なりと、心上の垢穢が滅して、鏡の如くに明了なるを神と云ふ、神鏡は本來淸淨にして常住寂然である、是を國常立尊と申し奉る、心鏡本來圓とかに且つ明にして物として現はれざるとなきを、天照大神とこそ申し奉るのである、然れば根の國底の國と云ふも畢竟生死長夜の中に吟よふ者を稱するとは瞭らかである、此の語は神宮に納め奉る秘紀の中に在る御文にして決して予の臆見ではないで、あるから、神心は時間的には古今を一貫して色香を替へたるを絕へてなく空間的には宇宙に彌綸して、寸地も照さゞる處はない、太陽は明かなりと雖も覆盆の下には及ばぬ、物質的一片に傾きたる、少さな目で見る時は種々の幻影が見るでもあらふが、根本の神心なる者は、左樣な窮屈な處には尻を据へて居らぬ、で、あるから、中々普天の下王土に非らざるなく、率土の濱も王臣に非ざるなし位の沙汰ではない、故に大量の者之を用ゆれば即ち同じ、小機の者之を執すれば即ち異なると云ふてある本文を以て本文を見れば、文意紙上に躍つて明々歷々露々堂々たるものがあるが、之に反して強て牽き付けやうとすると、神代のとは見るとは出來ぬ、神は音聲や姿形を以て見やうとすれば、益々其神なるものを見るとはならぬ離婁は黃帝の時の人なり百歩の外より能く秋毫の末を見ると云ふ其目甚だ明が有つた、黃帝赤水に遊びて珠を沈む、離婁をして之を尋ねしめたが見へぬ、そこで象罔と云ふ盲者をして、之を尋しめてはじめて之を獲たとある、故に云く象罔到る時光燦爛、離婁行處浪滔天と、面白い話しである、論者も說者も、倶に云ふ迄もなく實地に考證に、其論據は有るに相違なきも、唯其仕事を利するを目的として、他を顧みざるが爲めに、却て其足元の浮いて居るに氣が付かぬのであらふと思ふ、斯の如き國体に關するとを、說き出さずとも、社會道德上の點からしても、且つ現下兩國の關係から說くに足る論點は幾らもあるであらふ。如何なる論據があるとも、考證が明確であるとも、韓國に古蹟があるとか、清國にぞうだとか、華國体に關するとは、予の如き蠢思想の者は服するとは出來ぬ、又先き言ふた如く教育上に影響するとあらば、由々敷大事である、唯々『ナニゴトノオワシマスカハシラネドモアリガタサニゾナミダコボルル』是が吾が國民の腦底にある崇敬の信念である。然し以上論じ來れども、其書は未だ見たのでなく、其說や實地に聞いたのではない、何れも人傳で聞きたるので、聞錯りの過失がないとも限らぬ、であるが、要するに我が太日本の國民たる以上は、苟も國体を、傷ける樣の言動は、斷じて恐懼し、戒愼すべきである。

文苑

源公

●面が見たいわね

「○○活版所の事務員でせうね、何んでも大層八ケ間敷理窟家が居るわと話し中と斷るとそんな筈がないとか、何うしても出ませんといふと出ない筈はないとか本統に好かん奴だわ」と十七八の蛯茶袴を穿いた娘が相手の女に斷ふいふた二人共多分電話交換手だろう「全くだわ」「那の位厭な奴はないわ」と合槌を打つて居た相手の女は透かさず物知り顏に「活版所ぢやなくつてよ、新聞社よ面が見たいわね……」といつた間もなく二人は四辻の所で別れて了つた

俳句

●波上吟　日曜吟社

△青葉（結、乙女の内）

蝶二つ寐るや青葉の女夫塚　月哉
水貰ふ下女も青葉に隱れ飛　淡水
惱む目を青葉に瘉す遊女哉　○から
窓に凭る女みめよし梅青葉　文子
名所や女畫師住む青葉寺　四樂
琴止めて青葉に對す女かな　同

△晝寢（結、歌笑の内）

小女郎の晝寐に凄き笑ひ顏　文子
晝寢する子供を撫て笑顏哉　玉糸
唐突に笑ふ狂女の晝寢かな　月哉
共に歌唄つ晝寢わねいもと　禿山
浮氣女のふてたる晝の寢態哉　逸名
笑はるゝ姿も知らで晝寢哉　淡水
歌詠の子に似や何日も晝寢哉　四樂
句に疲れ歌に飽たる晝寢哉　文子

佐倉宗吾（百卅三）

眞龍齋貞水講演

此御姫樣のお膈樣は、既う御緣邊は整つて居りますけれども、御歲廻りが惡いと云ふので來年御輿入になると云ふ事に成つて居る、其御姫樣が御風呂を召して、御風呂から御上り遊ばして、御化粧の室に大きな鏡がある、其鏡に向はれました、現今は姿見の大きいのが幾らもあるから何でもないが其時分御大名の御姫樣でなければこう疊半疊敷くらゐの立派な御鏡が立つて居る其御鏡で御髮を搔き上げ、御化粧を遊ばし御召換を遊ばし、再び御姿見に御向ひ遊ばして如何な姿であらうかと、御映し遊ばさうと思ふと、其鏡は眞赤に血の如くに成りましたから「ハテ不思議」と御覽になると其眞赤な血のやうに曇んだやつが、左右にスッと開くと、明白と宗五郎が現はれ、蒼白な顏をして兩眼血走り御姫樣の方を睨んで、ニタッと笑ふと、御姫樣キャッと氣絕、女中一同は何が何だか全然分らぬから、御姫樣がソレ大變と、醫者よ藥よと大騷ぎになりましたが、何分御倒れ遊ばした時に、後に在つた御塗盥のため、腦を甚く御打になりましたから、其まゝ御落命となりました、此事を殿樣へ申し上げると、やはり宗五郎の祟りならんと、二人の御子樣を亡ふても、う落膽あそばした、すると九月末から段々御全快に成つて、もう何にも障りがない大名の事だから、二人の御子樣の變死は皆な變死でないやうに御屆を致して、今までと異つて、段々御氣が軟かに成らせられてもう十一月は全然宜しく成らせられました、そこで御病氣全快の御届をして、再び登城をした上で隱居いたさうと云ふ御考へで玄猪の御登城を遊ばし、久々にて御大老酒井雅樂頭、稻葉丹後守殿に御會になりました、流石御大老も、父加賀守が勤功がある故、僅に六萬石を削られた丈で、今は十二万石となり、數ば家に怪しき事もあつた事を御聞及であるから、以前の上野介と、ガラリ變つて御居なさるから、氣の毒なものと思し召す、何しろ御側御用人の職は、其まゝ仰せ付けられて居つて、久々の登城であるから、將軍家へ對しても、是迄御病氣の由を申し上げられ、そこで其日御退出の前に御厠へ入つしやいましたから御坊主が御厠まで御附き申て御厠の外へ御待ち申して居るが、何時まで經つても出て往らつしらぬ坊「ハテナ、不思議な事だ大變御長い事だな如何に御長い御厠でも此樣に御長い事は無い御病後の事だから御疲遊ばして御眠遊ばしたか知らぬ、叱られても構はぬ御喚び申さう」そこで三枝三阿彌と云ふ御坊主が「上野樣—上野樣—上野樣アーハテナ不思議、上野樣—堀田樣ッ—上野介樣ッ—」この位大きな聲で喚べば、御眠りになつて居ても、眼が覺めなくつちやならぬがエーッ、御小言があつても構はぬ」と御厠を開いて見ると、上野介樣の御姿が見えない、アッと驚いて、三阿彌こりや不思議と思ひ、方々を見渡したが、別に窓を破つたやうな所もない、夫から彼の邊、此の邊を尋ねて見たが知れないから、據ろなく御大老の御詰所へ來て「三」恐れながら申し上げます、上野殿唯今御厠から何れへか御紛失でござる、サア御大老、眉を顰めて、不思議な事があるゝ、兎に角諸方を調べて見ろとあつて段々調べて見たが分らぬ、そこで御大老は稻葉丹波守と御相談の上、上野介御名代を御駕籠へ乘せまして、上野介殿が下城なさる態に屈をして、ズッと其日はそれで相濟んだ、サア堀田原御上屋敷へ、此事を申し上げると、堀田原御上屋敷は、上を下へと大騷ぎ、御親類へ人を出して調べて見たが、何うも分らぬ、一同不思議に思つて居ります



（佐倉宗吾並に小供畫像）

▲講談豫告▼

引き續き江湖の喝采を博しつゝある講談「佐倉宗吾」は名殘り惜しくも愈明日を以て大團圓を告げんとす、次で之れに代るべき講談は「中山大納言」にして講演者は桃川燕玉なり演題既に趣向に富む而も講演者は東都講談界の老手たり、詞調句辭恰かも面の當り聞くの思ひあるべし乞ふ刮目して俟たれん事を

京城新報

英暹の新條約

頃歐電報によれば英國は暹羅と新條約を締結し、馬來半島に屬せる暹羅の屬地を作りたるもの如し、其新條約は暹羅の民刑商法の新制定と共に英國の國民に於ける治外法權を撤去することを承諾し、暹羅は之に對して馬來半島ケランタン、ケダ、ペルリス等に於ける自國の宗主權を英國に移讓するにあり、而して此新條約は英國の海峽殖民地に對する大なる價値あるものと承認せられつゝあり此等の諸州が英國の保護國となるに於ては資本は續々注入せられて急速の發達を見るに至るべしと、余輩は此報に接して英國外交の機敏にして常に實利に敏きを着くことに感服せざるを得ず、世人も知る如く暹羅は從來佛蘭西の勢力範圍なりと目せられ、且東京安南等佛國の領土若しくは保護國に接近するの關係より佛國の勢力は暹羅に波及せざるを得ず、爲に一時は殆ど佛國の保護國たるに至るべしと思察せられし程なるに、英國は此間に處して能く外交手腕を揮ひ漸次其勢力を樹立し、終に今回の如き有利なる新條約を締結するに至れり、之れ外交の妙と云はずして何ぞや。此英國外交の成功は取りも直さず佛國外交の失敗と見るも不可なるなし、馬來半島が英國の海峽殖民地に大關係あるが如く、佛國の殖民地に亦大關係あるや素より論を俟たず、是を以て兩國の暹羅に於ける勢力の消長る力を用ひざるに非ず、然るに一方は漸次に勢力を失墜し一方は漸次に其勢力を樹立せるに至りしは抑も何に原因するか、余輩の見を以てすれば佛國の外交が常に其實質よりも外形にのみ意を用ひたるの結果に非ざるか、英國の外交は所謂花よりも團子主義にて其實利を得る爲に意を用ゆるの觀あり、英國は暹羅の如き半開國に對して治外法權を撤去するが如き寛量と云ふより寧ろ其實利に重きを置くことを諒認せずんばあらず、其狀恰も右手に花を捧げて左手に麵包を攫取したるが如し、外交の妙は則ち此點に存する也、英暹新條約の締結を見て余輩は帝國の外交に顧み轉た感慨の情禁ずる能はざる也、二三國際問題の交渉を見るや、對清外交の如き[illegible]ら名が如きに至りては何人か憤慨せざらん[illegible]、而して更に韓國保護の現狀に考を及ぼすに至り、暹羅に於ける英佛の外交を比較し多く學ぶ所を見出さずんばあらず、右に花束を捧げて左手に麵包を攫取する英國の外交は聊か鑑とするに足らざるか、世界の大勢は絕へず推移し、外形的華麗政策は泡沫の如し、實利の扶植に非ざれば到底百年の大計を建つる能はざる也

ロイター電報

●波斯國民黨侵入

波斯國民黨は十四日テヘランに侵入し激戰を始めたり在留外人には危害なし(十五日後東京電報)

東京電報

●三助教授出張

京都醫科大學[illegible]同工科大學助教授今中忠は韓國へ出張を命ぜらる

●墨國領事榮轉

墨其所駐在本邦領事[illegible]は西班牙公使に榮轉することを命せられたり

●妃殿下ご梅ヶ香丸

皇太子妃殿下には[illegible]義勇艦梅ヶ香丸乘組員に午餐を賜はり御歸京遊ばさる

●憲兵少佐後備編入

先に韓國憲兵隊副官に轉任したる憲兵少佐藥師川氏は今回後備に編入さる

雜報

●梨本宮入京期

梨本宮同妃兩殿下には來る二十一日御入京相成る由

●仁川發光景

十四日仁川理事廳に一泊したる伊藤公は十五日午前九時三十分儀仗兵警護の下に理事廳を出で波止場に至り暫時休憩の後十時十分小蒸汽デーリー號に乘船十時三十分滿洲丸に移乘し乘船の際本船よりは十九發の禮砲を放ち敬意を表したり見送人は韓皇及太皇帝よりの勅使、各參與官、各部大臣、宮內府大臣、統監府各局長、信夫理事官、宮本稅關長、岩崎民長、奧田民會長並に滯京中の各理事官等の人々は宮丸、辰丸の近見送りたるが伊藤公は三鞭酒を擧げ祝して十一時十五分錨を拔き途に就かれたり尚此日は便乘見送りし居民は波止場に整列し見送りたり

●帝室債務支拂

過日帝室債務審査會にて審査決定したる債務支拂金三十八萬円四百七十五圓は歲出臨時部追加豫算として十五日の官報を以て發表されたり

●關稅局組織變更

韓國關稅局を廢し度支部司稅局に關稅課を新設すべしとの說は從來屢々度支部內に唱へられたる所なるが總稅務司時代の沿革もあり直に實行さるゝ能はざるも今回永濱氏の轉任と共に決行さるべしと云ふ

●韓皇の德壽宮參內

韓皇には十六日德壽宮に參內太皇帝に謁見して暑中見舞を申上げらるゝ筈なり

●理事官會議休會

統監徵、志各參與官仁川行の爲め十五日の理事官會議は休會したり

●觀察使會議休會

十五日開會すべき觀察使會議は次官局長下仁の爲め休會せり

●統監府出張所移轉

東京統監府出張所は十四日麴町區內幸町一丁目三番地に移轉したりと

●宋秉畯氏の歸韓

目下滯京中なる宋秉畯氏は此程警視副監具然壽氏に書信を寄せ本月下旬歸韓すべき旨申越したりと

●伊藤公ご教育基金

伊藤公は十四日出發に際し京城民團に二百圓龍山民團に百圓を教育基金として寄附したる由

●鍋島部長東上用務

鍋島外務部長が伊藤公と共に東上せし用向は過日締結されたる司法權委任に關する日韓協約書を携へ我政府に報告の爲めなりと

●暴徒鎭壓船の契約

暴徒鎭壓のため使用すべき石油發動機船十六隻は本月三日大阪木津川町三原某と契約を締約せし旨其の筋に報告ありたりと

●結數調査の着手

度支部にては今般一万七千餘圓を支出し結數の調査に着手したるが他日國有地調査の資料に資する筈なりと云ふ

●博覽會ご美術工場

漢城美術品製作工場にては日英博覽會に出品すべき美術品につき目下宮內府と打合せ中なりと云ふ

●ソンタク孃ご給料

既報の通り永く宮內府御用掛として其名を知られたるソンタク孃は先般辭職することゝなりたるを以て宮內府は三ヶ年分の給料約三万圓を此度一時に交付する由

●司法制度發表の形式

既報の如く韓國の司法權を今回我日本に委任したるに就きては何れは何等かの形式に於て發表せらるゝ筈なるが日本法律は今日の狀態として直ちに韓國に適用し得べきものにあらず故に今回の國際條約を淵源と爲し帝國議會の議を經て其組織權限等を定むるの必要あり又其順序に依るは當然なりと雖も斯くては時日の遷延の恐れあるに依り緊急勅令を以て發布せらるゝことになるべしと云ふ(京通所報)

●愛婦臨時集會臺臨

本會名譽會員梨本宮妃殿下の御入京に際し韓國本部にては日韓會員の臨時集會を開催し殿下の臺臨を仰ぎたき旨岩倉本會長を經て其筋に稟申せしに御聽許あらせられたり

●東拓ご衛生事業中止

東洋拓殖會社にては目下漢城衛生組合の爲しつゝある事業を引受けて京城に於ける衛生事業を掌握し其肥料を以て會社農業上の需用に充て餘れるは他に貸渡すべき計畫なりしも資金の上よりするも事業の上よりするも目下の所にては其余裕あらざるより中止する筈なりといふ

●司法制度の將來

司法制度は將來如何なる組織に於て取扱はるゝかは今日の場合に於て最も研究すべき問題なるが今某消息通の語る所に依れば實行後に於ける司法行政即ち現今法部の取扱ひつゝある事務は統監府に於て新に其局を增設し倉富氏之に當ることゝなるべく裁判は臺灣の如き制度を以てし而して適用すべき法律は日本人及外國人に對する時は全然日本法律に據るべしと雖も韓國人には特別法を適用することになるべし云々(京通所報)

●寧邊地方交通杜絕

寧邊地方各方面降雨のため洪水甚だしく交通杜絕したる旨其筋へ電報ありたり

●地方官資格審査會

地方官資格審査委員會を十四日內部に於て開會せり

●一銀支店長會議

去る十日より開會中なる第一銀行各地支店長會議は十六日を以て閉會の由なるが今其內容を聞くに初日は市原總支配人より一場の訓示をなし十三日、十四日の兩日は業務引繼方法に關する協議をなし十五日は業務引繼に關し詳細の手續を協議し十六日は所有物に關する各支店長の調査報告及び貸出金內定に關する說明報告をなす筈なり

●愛國婦人會協議會

梨本宮妃殿下御入京愛國婦人會集會に臺臨あらせらるゝに就き本部の香坂、兒玉、三浦外十五名の各夫人は十五日午前十時和城俱樂部に會合し奉送迎御接待等に關し種々協議を遂げ尚此際會員の增募にも務むべく打合する所ありたるが臨時集會は來二十一日午後四時南山本願寺別院に於て開催する豫定なりと

●軍部廢止ご建白書

軍部廢止の說確的に軍隊部內に傳はるや多數の將校は多大の恐慌を來たし十數名の將校は去る十三日北部桂洞陸軍正尉金泰元方に會合し數時間に亘り密議する處ありたる結果遂ひに李軍部大臣に建白書を送ることに決し軍部廢止の理由及廢止後の狀態を問ひ若し軍隊解散を見る如きことあらば非常手段に訴ふべしとの威喝的意見書を送致したる由なるが李軍相は之れに對し軍部の廢止は萬止を得ざることにして如何ともする能はざるも軍隊の解散は絕對にあるべき筈なく現在の將校士卒は其儘宮內府の內に移さるべしとの返書を與へたるを以て一同漸く安堵し退散したりと云ふ(京通所報)

●鴨江綠の視察團

釜山其他二三居留地の商人實業家を一團とし岡十郎氏視察團長として之を統率し鴨綠江流域の利源を調査する爲め下流より遠く帽兒山附近迄踏査の計畫成り之が指導者として同地方の事情に精通する人の派遣を農商工部に出願し來りたるを以て同部にて鶴岡書記官又は本間事務官の一名を同行せしむるに內定したりと

●降雨と地方農作

十三日付にて農商工部に報告したる各地降雨の狀況左の如し▲木浦 大雨あり悉皆植付出來る見込▲咸北 連日打續き雨あり害蟲發生し凶作の見込▲光州 大雨植付中▲忠南 驟雨の爲め插秧に着手せり▲全南 降雨の爲め用水を補ひ得たり▲京畿 十中の七八插秧を終り一般に良好▲楊州 十一日來の雨にて用水滿々たり

●滿洲銀行不設立說

昨今政府は資本金一千萬圓の銀行を滿洲に設立する計畫中なりとの說あるも大藏當局者は假令巨額の資本を以て一大銀行を設立するも、租借地及び鐵道附屬地內に於ては放資の目的物極めて尠なく、且つ信用の程度低きを以て營業の成立覺束なしとて設立說を打ち消し居れりと東京の有力なる新聞は報せり

●社寺取扱方に就て

社寺の取扱方に就き某道書記官の意見なりといふを聞くに寺院は光武十年前後に內部に於て總攝なるものを任命し本寺の寺主は總攝の推擧に依りて觀察使之れを任命しつゝありたるが其後有邪無邪の間に廢れたるものなるを以て今回之れを復興し是等僧侶の大體の權限及財產保管に關する簡易なる方法を規定せば寺院の取締りは夫れにて充分なるべく社祠も從來の如く放任主義を執り唯地方廳の管理に屬するものにして財產を有するものは道に於て相當の管理者を任命し以て其財產を保管せしめ且道令を以て簡易なる管理法を制定するに在り云々と

●永濱氏轉任內定

美濃部北海道拓殖銀行頭取が韓國中央銀行總裁となり永濱關稅總長其後を襲ふべしとは曩に東電の報ぜし所なるが右は既に內定せる由にて永濱氏は嘗て大藏省銀行課長の職に在り銀行事務に精通せるを以て曾禰統監は同氏を薦推したる次第也と日電は報ず

●管內政務報告書

各道觀察使は管內政務に關する報告書を新舊統監に送れり

●追加豫算額

隆熙三年度歲出入總豫算追加及同年度特別會計歲出入豫算追加左の如く十二日を以て發表されたり

第一條 隆熙三年度歲入出追加額を各五十七萬五千四百七十五圓と定め其欵項の金額は前冊甲號歲入出豫算に依る可し

第二條 前冊乙號所揭の費途は既定の年限金額を改定し隆熙四年度に亘る繼續費とす

甲號 歲入臨時部 第一欵 緣入金十九萬四千圓第四項公債緣入金、十九萬四千圓第四欵前年度編入金、三十八萬千四百七十五圓第一項前年度編入金、三十八萬千四百七十五圓歲入臨時部合計金、五十七万五千四百七十五圓歲出臨時部內部所管第二欵治道費、十九万四千圓第七項工事費、十九萬四千圓度支部所管第十一欵帝室債務支拂金、三十八万千四百七十五圓第一項帝室債務支拂金、三十八萬千四百七十五圓歲出臨時部合計金五十七万五千四百七十五圓

乙號 治道費金二百四十九萬六千圓、既定總額內百五十一萬四千圓隆熙二年度迄支出額、九十八萬二千圓三年以降支出額此改定年額左の如し六十八萬八千圓治道費四年度、二十九萬四千圓

治道費特別會計豫算 隆熙二年度度支部所管公債金の歲入出豫算追加及其欵項の金額は別冊歲出豫算に據る可し度支部所管公債金歲出第一欵歲入臨時部緣入十九萬四千圓第一次公債金緣入金十九万四千圓

●忠南の降雨と插秧

去る十一日來の降雨にて未だ插秧に至らざりし忠清南道地方は悉く插秧するを得農民愁眉を開けりと

●水產會社六月統計

釜山水產會社六月中の賣揚高は五萬一千六百八十八貫價格二萬四千九百四十七圓七十九錢九厘此漁船數二千八百十七隻なるが之れを前年の同月に比較するに極めて薄漁にして唯鯖漁に於て相當の水揚ありしが爲め全體の水揚に付ては三步の增加を來たしたるが漁船數に於ては八隻の減少なりしと

●官煙の組織變更

東亞煙草株式會社は今回組織を一變し滿洲にては大連に總販賣所を設け營口に支店を設け他に五箇の販賣所四出張所を置き韓國に於ては京城に一支店と一總販賣所とを設置し別に五箇所の販賣所を置き同時に官煙販賣のみに止まらず大製造所を京城營口に創設して盛んに外煙と競爭するよし

●最上主計正歸任

北韓羅南兵營建築視察中なりし最上主計正は十四日歸任せり

●道郡主事の任命

全道を通じ道郡主事約十名の缺員ありたるが此程東洋協會出身者五名其他より五名任命したりと

●技監と局長の陞任

別項辭令欄にある如く農商務省鑛政課長の工藤英一氏は農商工部鑛務局長勅任官三等に任命されたるが是迄同局長代辨たりし黑岩休太郎氏は技監に陞任して巨智部博士の後任たるべく農務局長代辨たりし中村彥氏は同局長に內定し不日任命せらるゝ筈なりと

●矯風禁酒演說會

十六日午後八時より旭町二丁目名古屋城に於て矯風禁酒演說會を開く由なるが演題は「禁酒と衛生」山縣甚之助「兒童と禁酒」山口照平なりと

●山道氏の歸鄉

大韓日報記者山道亞川氏は母堂病氣看護の爲め鄉里廣島へ歸省中の處去る十四日朝歸京したるに同日午後に至り母堂危篤の電報に接し又々昨朝廣島に引返し令兄叶川氏も右の報に接し昨夜南大門發列車にて鄉里に急行したりと

●辭令

內部書記官 長濱榮三

陞敍奏任官二等 警務書記官 神谷卓男

同 中井喜太郎

大韓醫院醫官兼教授 矢野榮吉

警視廳警視 渡邊鷹次郎

警視 坂東榮次郎

陞敍奏任官三等

任農商工部鑛務局長敍勅任官三等 工藤英一

工業傳習所長 野田忠[illegible]

平壤鑛業所理事 佐藤[illegible]

陞敍奏任官二等

公人私人

▲平澤勝吉(熊本新聞記者) 十四日釜山へ
▲辰野金吾(工學博士) 巴城館に止宿中同日釜山へ
▲岡本豐七郎(開城居留民總代) 浦尾へ投宿中同日歸城
▲本田幸介(水原勸業模範場長) 十四日入京巴城館へ
▲太田秀太郎(安東縣居留民長) 同浦尾へ
▲中野初太郎(同民會議長) 同上
▲名和勝(鐵原金融組合理事) 同上
▲松尾芳次郎(關東都督府民政課員) 同東滞[illegible]

近事片々

▲伊公 太子大師を辭せんとの意あり韓皇懇々留任を勸請するも肯せずとの說は眞か
▲日本に於て太子教育掛を置て其總裁たるは可なるも此儘大師の職に居るは不可も
▲畢竟統監職を辭して日本に居る以上は大師の職を繼續するは不可也との意なるか
▲韓國に於ては伊公今回の渡韓には飛様の事業として何等か政變あるを期待せりと
▲然るに渡韓宴會頻繁して更に其機能なきに失望せる向ありとは果して事實なりや
▲司法權委任に就ては日韓協約とか[illegible]ち之を意味するか期待大なれば失望は當然
▲內閣更迭說も下火となる先づ軍部の廢止位で此處一寸落着か大山鳴動鼠一疋の類
▲軍部廢止の結果關員に多少移動を生ずるに至らむ一進會大韓協會も或は例の起擾
▲朴泳孝の歸來も打消され根澤址館等の活動もヲヂャンとなる暫く政客等狂奔か
▲清國の對日外交巧妙にて小村外相一喜一憂々至る飜弄さるゝ壽太伯れ目出たし
▲此狀勢を以て經過すれば何時解決するや計り知る可らず霞ケ關も存外に呑氣千万
▲英暹の新條約成立英は治外法權を撤去しケランダン、ケダの宗主權を握るに至る
▲右に恩を施し左に實權を握する是れ外交の妙流石は英國霞ケ關邊到底及ぶ可らや
▲獨逸膠州灣設備は驚く可き進歩青島の大學も來る九月開校の運に至ると壯なる哉
▲日本か二三の懸案問題に腦殺さるゝ間に獨逸や米國は對清外交に着々成功せる也
▲貴族院にては尚友派と懇話派と鎬を削て戰ひ終に尚友の勝に歸す桂侯嘸や御用心
▲尚友派にては官僚の周旋至らざるなく上官の命令を以て藥權者の心を翻さしむと
▲武官たる上官が其下僚に送りたる手紙ありと曾我將軍喝破上官とは寺內の事也と
▲鶴原君[illegible]友會の候補として群馬より打て出づ選擧場裡に中原の鹿を爭ふ亦快[illegible]
▲備後の福山にて件生ると件とは半の體にて人面也と造化の戲も極也と報する如件

京電報

名少將に昇任するものあるべし

●鍋原氏ご東肥 鍋原定吉氏は東京八[illegible]

日く滿韓共に經濟界不況なるが近々活氣を呈すべし滿洲に銀行を設立する事は不[illegible]

て內地を旅行するもの賊徒の目を掠めん爲[illegible]行者は充分注意されたしと、現に大[illegible]儀八[illegible]かに免るゝを得たりと

●犯罪出弗 午後八時

▲憲兵編制改正 改正の件は御裁可ありたり改正の重もなる點は從來の司令官は大佐又は少將たりしも少將若しくは中將となすの結果一二 ……造兵料會社の事務取扱役となるべし

▲勝田局長の滿洲觀 統監府觀察中なりし勝田理財局長は昨日歸着語りて……る勢力は注目に値す(以上十五日午後發)

●内地旅行者へ注意 韓國人民は一般に銃器の携帶を許されざるに日本人にしては討伐隊よりは暴徒と誤解せられ狙擊せらるゝの懼ありて本人一個の不爲のみならず討伐隊の行動に障害を來すを以て内地旅行……韓裝しながら良民を射擊したる……來りし清州管内逆合討伐隊の爲狙擊せられんとせしを一巡査……

▲相談の相談▼

(何んでも御相談に應じ升)

◎記者より相談 雇人の美點

讀者諸君の家にて召使はるゝ店員、下女、子守、車夫、下男等、一切の雇人の美點につきて賞讃的投書をなさつては如何ですか、例へば▲蔭日向がない不平を言はず能く働くとか▲給金の幾分を貯蓄し又は故郷の親許に送金を缺かさぬとか▲與へられたる暇を利用して勉強(學問に限らず習字、裁縫等)とか▲怠らず日記をつけるとか▲暇を出した後も音信を絶たないとか、何んでも其の長所特技、善行、美質にして感ずべき實例と其姓名年齡とを明記してです、尤もこれには嫉妬と云ふものが伴ふて少しは弊害はあるかも知れませぬが、當人に勵みを付け其の仲間の惡風を除く方の利益と差し引けば損はないと思ひますが如何なものでしよう、夫れで此れは强ち直接召使はるゝ者のみに限らぬ御懇意の家や出入の商家の使傭人等でも感心したるものは何んでも宜しいが何うで御座いましよう

◎問

僕は今迄に三人迄妻を娶つたけれど何うも氣に入つたのが無い、一人は藝妓で此れは三年一緒に居たが僕が未だ年が若かつたから是非は云へぬが餘り氣に入つて居たとは思はぬが之れは死んで終つたが第二に娶つたのは頗る眞面目の生娘であつたが之れは意氣が合はぬので五十日計りで追ひ出した第三のは女學生上り此奴も三十日計りで追ひ出した爾來娶らざること五年なるが此の頃友人輩が頻りと妻帶を勸めるし自分も持つ氣に成つたがモウ若い身でないから氣に入らなければ出すだまゝよ持つて試みと云ふ樣な無責任な譯にも行かんが然らばとて氣に食はんのを我慢もようせぬ全體僕は善く云へば磊落惡く云へば野法圖で家計のことなぞは貪着せぬ方の性質なのだが全體何う云ふ風の女が妻に適當だらうか問數を乞ふのだ(吉村)

◎答

貴君の樣な方を指して我儘といふのだと思はれます、自分の手や足でさへ自分の思ふまゝには云ふことを諾くものでない、夫れ計りでない生きた人間は其考へ違いで、イヤ出しても代りはあるからとの根本的の我儘から氣に入らなかつたのと思ふ、今日では貴君も一旦夫婦になつた以上滅多には離別など出來るものでないとの考へが出たとのこと、然れば大丈夫此れならと思つた方を娶りなさい、可成は年の若くない方を(錄)

●各地の水害状況

▲去十二日の釜山近傍 旱魃を憂ひし天候は却つて有難迷惑なる强風豪雨を降し去十一日來各地水害頗る多かりしが其重なる者下記の如し

▲金海 金海邑に於る風雨は十一日午後十二時頃より猛勢を加へ低地の憲兵分遣所東側の小河の水流氾濫の爲め堤防二ケ處を欠壞すると共に憲兵分遣所庭内に浸水したるが續ひて城内南門道路にも浸水せしを以て警官は附近人民を督して欠壞せる堤防に應急修理を施し漸く家屋内の浸水を免れたり而して金海右部、酒村、活川と臺也柳下の間を流るゝ細河は濁流を溢ひて田地に浸水し翌十二日に至るも依然たる狀態なりしが別に損害無く著るしき被害と見るべきは左部面東下里金太元の家屋二戸が風雨の爲めに崩壞されたると十一日午後十一時半頃右部面沓谷里金吉伊の孫金龍兒と稱する三歳の男兒が麥小屋に出掛けたる父の跡を慕ひて屋外に出で誤まつて深水中に陷り敢なく溺死したるが屍體は十二日午前四時頃に至りて屋外五十歩の處に發見したりと又下北面蠶川里安景九の妻李律伊(三十八)も同夜水死したる由なれども詳細の狀況は今明ならず

▲密陽 郡内を流るゝ密陽河は六尺餘の增水にて停車場より城内に通する新設道路(三門洞驛前日本人學校附近)は十餘間に亘りて浸水し一部の如きは渡船を以て交通し居たりと

▲東萊 前日丑の刻詣りの韓人父娘二名を水死せしめたる東萊附近の强風雨は十二日早朝より晴れ上りしも浸水は東萊釜山鎭間及び東萊蔚山間の道路を沒し一時交通杜絶の狀なりし洗兵橋附近の如きも河水未だ減退せず低原一帶は濁水に蔽はれて農作物の被害少からざるが如しさ

●間抜けた泥棒 昨十五日午前五時頃櫻井町六十二番戸大工岩崎敬六方邸内へ一人の賊忍入りしを家人が發見し泥棒〳〵と連呼せしかば賊は狼狽して通路を失ひマゴ〳〵せる折柄急報に接して驅け付けたる永樂町派出所の福島巡査の爲め取押へられたるが此奴は釜山東部楚内洞金錫英(四十)と云へる男にして既にズックの靴一足を竊取し居たりと……より飲食代の抵當として受取りたる事判明し犯人に就ては目下搜索中

●電車から飛ぶ 去る十四日午前十時三十分淸國人劉宗義(四五)と云ふ者南大門通三丁目帝國生命保險會社建築場前にて進行中の電車より飛び降りし爲め地上に轉倒し一時人事不省に陷りしを會洞派出所の窪巡査が驅け付けて介抱し漸く蘇生せし處へ淸國巡警二名驅け來り同巡捕廳へ連れ歸りたりと

●學校を破壞す 昨十五日午前四時鎭南浦公立普通學校へ暴漢一名來襲して外部の硝子戸を殆ど全部破壞したるが小使の密告にて警官直ちに出張逮捕の上目下取調中なりと

去る五日中檢の芝居に加賀見山の岩藤と鈴木主水の市助などに扮し非凡の技を認められし花月の辰子



●附馬の引廻し 去る十四日午後一時頃大和町二丁目料理店營業川底ながね方へ本町十丁目大澤龍次郎方食客無職青山彝雄(三十八)なる者來り金一圓の飲食を爲して勘定の段になると食客の身とて元より一文も所持し居らざれば宿迄來れとさてはながねを附馬として立去りしも一向宿へは歸らず所々方々を引廻して果てしなきにながねは其儘南部署へ訴出でしかば青山は其旨新町派出所へ引致されしが翌朝に至り知人某より仕拂を了せし爲め說諭の上放還

●自轉車の奪合 南署竹洞九統十一戸自轉車商池在源は去る三日一人の日本人に自轉車の賃貸を爲したるに其儘日本人は乘逃げしたるが一昨十四日午後一時頃右池在源方雇人姜相鉉が永樂町交番前を通行中本町一丁目裏通周旋業共榮舍雇人高島宗太(二十九)が該自轉車に乘りて通行中を認め互に爭ふ中末富巡査が認め兩人共南部署に同行して取調たるに宗太は該自轉車を或る客人から……布約一文を竊取し居たるを窪巡査が發見し……て南部署に引致す

●日淸船夫の鬪爭 安東縣住田中德次郎は營林廠の船にて中江鎭に遡る途七月七日午後一時半昌城郡廟洞里にて支那ジャンク四隻と曳綱の事より衝突し支那船夫一名は逃れんとする際誤つて河中に陷り溺死し他の日淸船夫は其筋に拘引せられたるも說諭の上放免せられたりと

●花火師鍵屋 過般統監邸に於ける園遊會の余興とし花火を打揚ぐる爲め特に東京より呼び寄せたる兩國の烟火師鍵屋は一昨日歸東したるが尙ほ仁川に於ける送迎會の花火も同人の仕掛けになるものなりと

●爆發藥密賣者 碧潼郡別面金正律(六十)はダイナマイト五十個導火線五十條を密賣せんとして發覺し銃砲火藥團束違犯者として平壤憲兵隊へ拘引取調中

●韓泥の現行犯 中部壽典洞居住朴弘植(三三)は一昨十四日午後三時頃第一銀行建築工事場に於て同銀行定礎式に使用したる綿布約一丈を竊取し居たるを窪巡査が發見し……

昨日當地に乘込みしが美當打揚後直に同座に開演し三十錢均一で當分打續ける由▲京城座は昨日通り「想夫戀」を再演す▲永樂亭は新に豐廣を加へたるが明日にて打揚げる筈讀物は左の如し

空家美人(辰雄)稻葉小僧(辰之助)明治武勇傳(呂昇)義士銘々傳(豐廣)伊達黑白論(辰丸)

▲歌舞伎座 美當一座は相變らず好景氣なるが一昨今夜の讀物は「旅順口總攻擊」なりと尙は新派愛澤一座は……

●山道君兄弟の歸鄕 本年四月自分は養父に死なれて歸鄕した、其當時大韓の山道叶川氏同亞川氏も母堂病氣看護の爲め相前後して歸鄕せられた、然るに母堂は其后稍輕快なりとて戀て歸京せられたが當時自分は氏等を觀て頗る羨ましく思つた、其れは自分の父は死し氏等の母堂は遂に此事なかりし爲めである、處が老体の母堂は其後の容体甚だ面白からず過般來亞川氏のみ歸鄕看護に努められつゝありしに如何なる都合にや一昨十四日朝當地に歸り昨朝又々鄕里廣島に引返したと聞いて叶川氏に電話を掛くると愈々危篤との電報昨日來數通到着せしため自分も今夜出發說行する筈なりと、幾きには日々の花葉君妻君の實母危篤なりとて夫妻相携へ松山に歸省し今又山道氏等此不幸あり、本年は愈々天が我同業者に崇すると見へる七十に近き兩親と養母との三人を控へて居る自分に取つては人事と思へず頗る心細く感ずるのである(十五日蒸燒き與最中編輯室にて柳江)

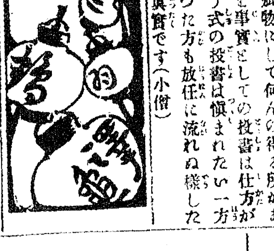
平民文庫



▲本町通りの商家の細君評を先づ靑木堂のは働き手で店の者なぞは敬服して居る烟突問題で攻擊せられた大和軒のもナカ〳〵の遣り手で萬事の切り盛り鮮かなものだが聊か天下樣の趣きがある四ケ所商店のは故國へ歸つたのだから除いて日韓書房のは其美貌と愛嬌とは多く類を見ぬ多病なので思ふ樣に働くことは出來ぬ樣で氣の毒だ辻屋のは誠に淡泊で女客なぞも這入り宜い主人と同模型で毒がない、跡は追々投書します(地廻り)▲御社近傍に住居する或る町内の幅利きの後妻は非常に先妻の子を虐待する彼の分で行けば責め殺される近所の人達ちからでも其筋へ密告して說諭でも爲て貰ふ樣にすればよいに(腰辨)▲歌舞伎座の中の札改めは非常に嚴格だ滊車の改札よりは更に劇しいマア人氣があるから附け上つて置くさ……(憤慨子)▲……の後は誹謗に涉れるを以て抹消します斯くの如き些末のことは講演者の知る所でない要するに興行大切師匠大切と一筋に思ひ込める下廻りの不心得だ、邪貿にしてもですよ我慢なさい(係)▲赤門前の藥屋の內儀さんは橫柄の樣に思へる物を買ひに行くと拋り出すいくら何んでも酷い

▲此の頃の暑さは步行も出來ぬ……注意して呉れ玉へな(近所の下男)▲此の頃の本町通りの家の娘さんかは容色は兎に角の家の隣りの家の娘さんかは容色は……い方だが心掛けが宜い相だから差し引き女としては上等だ(一閑人)▲此の頃の本町通りは僕の如き氣の弱いものには步行けぬ人出だが其割に各商店は閑散だ(花の下)▲北米倉町の山陽亭と云ふ床屋の主人だかは十四日の夜銀水さか云ふ飲食店の酌婦を店頭の大姿見鏡の前の椅子に腰掛けさして後から煽いで遣つてたが凉しいと云つたら嬉し相な顔をしだつてアー煽いで呉れゝばアー凉しくつて見せるよ(への字)▲壯俳橋本の本町七丁目の下駄屋の娘と醜關係があるといふ噂は甚だしい間違ひで、其した人があつたが甚だしい間違ひは其の點にかけて信用の出來る人で彼の娘さんは其樣人でない事も明白なるが彼の娘さんは其樣な關係がある芝居は見に行くが俳優なぞと話もないのは事實だから其の樣な關係のないと云ふことは分明ではありませんが生娘を强いて疵物にして何んの得る所があります事實を事實としての投書は仕方がないが、だらう式の投書は愼まれたい一方年頃の娘を持つた方も放任に流れぬ樣した(公平子)▲眞實です(小僧)





●紳士の遊興振 右は紙面の都合に依り本日休載

●天氣豫報 (自十五日午後六時至十六日午後六時) 南西の風晴

十四日 (華氏) 最高溫度 八五、六 最低溫度 七七、四

澁澤石鹸製造販賣
用途 工、鑛山、水道、湯屋 散髮、諸工業用
（電話九七三番）
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

●專賣特許 物品用 旅行 … 分權 希望者を需む 氏名在社（二九七）
●官用新案 携帶至便に旅行用硯 韓國分權希望者を需む 氏名在社（二九八）
●被雇度 年廿五才強精米業多年經驗京仁間精米所に雇はれたし確實保證人有 氏名在社（二九九）
●中等教育有る廿七の青年報酬多きを不望會社、商店に雇はれたし 氏名在社（三〇一）
●年卅五多年電氣工務（又簿記精通）の經驗有り市内保證人有り相當處に雇はれたし 氏名在社（三〇二）
●望外人女中 外國人の女中又は小供守に被雇度年廿四体健給料不望 氏名在社（三〇三）
●被雇度 簿記に精通の中等教育ある二十才の青年會社銀行店舖等被雇度給料不望保證人あり 氏名在社（三〇四）
●莚織機械廿臺○繩綯機械○藁打機械一臺安價に賣却す大和町二の二九 渡邊方山本
●中古寫眞器一揃一個格安に賣却したし 氏名在社（三〇六）

物件部

●夏向賣店 旭町一民團役所燒跡附近にて夏向恰好の賣店二箇所あり希望者は至急申込あれ 氏名在社（二九五）
●電話格安賣物あり 氏名在社（二九六）
●電話讓渡 格安又は月賦讓渡の相談に應ず 氏名在社（三〇〇）

廣告





代理店
京城南大門通三丁目 新井藥房本店
京城本町三丁目 電話一〇六八番九〇四番（電話四七八番） 新井藥房第一分店
京城南大門外 新井藥房第二分店

梅毒專門
皮膚病一般
痔 注射療法（不要入院）
京城南大門朝市場櫻家旅館内
神戸資生院長
出張診察所
電話三百十二番
院長府立大坂病院專攻
元兵庫縣立福原驅梅病院醫長
醫學得業士 蘆田耕平
○資力乏しき病者には割引又は施療を爲す

南門湯横に病院新築中に付き本月末移轉開院す

專賣 商標
外用塗擦 治瘡藥
最大瓶 一圓二十錢
大瓶 六十錢
中瓶 三十五錢
小瓶 二十五錢

○せんしんたむし○なまず○せんがさ○いんきんたむし○しらくも○くさかぶれ○みずむし○ひせんがさ○かんがさ○しもやけ○うるしまけ

右は弊店世に偽ふる處の靈藥にして皮膚病一切に用ひて卓效あり從來此により回春の幸福を得たるもの遠近老若數多し今回方諸君子の懇請默しがたく材料を精選し近の醫學に照らし加味驅梅調劑を正確にし當許を得弘く世に發賣せんとす世の皮膚病に患める士女願はくは一度本劑を試用し効果の顯著なるを御實驗御高評の程奉願上候

調劑發賣元
韓國京城南部壽町丁目浦尾旅館
仁風堂 浦尾きち

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す 弊場は此に留意し良好の食料を給す



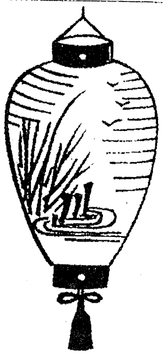
京城本町五丁目（電四七番）
販賣元 川に松尾支店
京城東四軒町（電七五番）
搾取所 松尾牧場

●弊場搾取の牛乳を受飲せらるゝ御諸君は最も滋養富豊風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

名譽院長出診
陸軍一等軍醫正從五位勳三等功四級 名譽院長醫學士 北村徐雲
但偶數日（丁日）午後出診
一內科、眼科
一外科、花柳病、婦人科 院長 古城梅溪
一小兒科、內科、耳鼻咽喉科 副院長 得業士 古城貞
一眼科、皮膚病科 醫員 河野作藏
一入院隨時 普通病室、產室、隔離病室
京城本町四丁目（電話二一四）
新築病室落成
贊化病院

荒物世帶道具一切
大坂製白絞油和洋蠟燭
和傘岐阜提灯魚釣道具
卸小賣
地方在住の各位には御申越あり次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候尚弊店營業品目錄御入用の御方は御通知あり次第送呈申上候
荒物世帶道具
各國諸油米穀
銘酒澤龜 アサヒ サッポロ 麥酒
並に買次業
京城本町六丁目
西崎嘉七本店
電話長二一〇（ニカ又はニ）
振替貯金口座東京（九四一七番）

東京
賣出し披露の爲來十日より十六日迄均一大安賣
一圓三十錢均一 同
一圓五十錢 同
一圓七十錢 同
百足限り
●第一回三百張賣切
●第二回二百張限り
無利益元價の
貳拾五錢
此外極上等品種々あり



本店東京
京城大和町一丁目日の出橋際（取次電話五五）
藤井出張店



京城南山町一丁目
南山の風景を目前に眺め浴場の設備あり

內科 外科
小兒科 病
梅毒淋病
入院隨意
院長 陸軍軍醫正 高井貞治
京城壽町三丁目
高井醫院
電話（二一六）

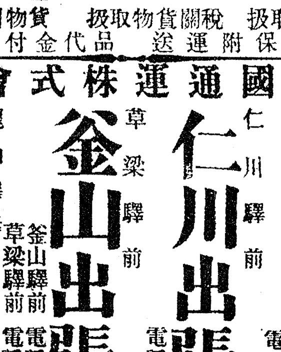


工場新築落成に付當分の間二割引

入院隨意
南山町二丁目
松岡醫院
電話六七五番
各科診療



移轉開業
病室設備
入院隨意
本町一丁目（京城郵便局前）
森田醫院
電話九百十三番



貨物運送取扱 危險擔保附運送 稅關貨物取扱 品代金付貨物運送 貨物引換證發行

內國通運株式會社

京城支店 京城南大門驛前 電話七〇八番
仁川出張所 仁川驛前 電話五一一番
釜山出張所 草梁驛前 釜山驛前 電話六一六番 草梁驛前 電話五三七番
龍山派出所 龍山驛構內 電話二〇六番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客様に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目
原金旅館
（電話長一〇七番）

大 〇 萬
特約販賣自製
漬物 味噌 醤油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
和洋酒、回精酢、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候
（電話二五一番）

營業科目
活版活字鑄造 石版銅版 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 各種機械 製本裝釘
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ於テ營業致候
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話（三二三番）
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

明治廿年七月創立
京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九
東京火災 海上運送 保險株式會社
資本金一千萬圓
事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

待合 春日

九州セメント
上等生石灰販賣
京城南山町一丁目 電話三四四番
山村商店
龍山元町一丁目 電話三四八番
中村運送店

名譽銀牌受領
キリンビール

◎氣候變化＝牛乳
◎牛乳＝良純＝消毒
韓國畜産株式會社
南大門外（電話八八番）

特定御用
消毒 純良
牛乳
荒井牧場
電話一〇五六番

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
電話十番
仁川海岸通 電話三九番
貨物及船客取扱店
郡回漕店

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 八月一日午後三時
●大連、芝罘、牛莊行 高砂丸 八月五日正午
●大連、大沽、牛莊行 山東丸 七月二十日午前五時
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 七月二十二日正午
●釜山出帆、元山、淸津、浦鹽行 立神丸 七月二十八日午後

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 ●廣告料
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城 京城新報社 電話六六三番